

平成 29 年度 事業報告

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

<概況>

本協会は 1980 年 7 月 26 日に創立され、昨年 37 周年を迎えた。創立以来、家族の絆を強めて家庭の再生を図る生き方を社会に提唱し続け、幅広い生涯学習に取り組んできた。家庭崩壊の危機が一段と深刻化している今日、本協会の理念と長年にわたる活動実績が国内外から、家庭教育を中心とする生涯学習団体として高く評価されている。

組織面では、新たに制定された公益法人法に基づいて、平成 26 年 3 月 20 日、内閣総理大臣から「公益社団法人」として認定され、平成 26 年 4 月 1 日に移行・設立した。

一昨年には、創立 40 周年年度の目標として「全国 50 スクール体制」実現を掲げた。併せて組織の再編成や新しい地域の開拓、研修・学習体制の見直し、地区事務局体制の強化などを実施すべく積極的に推進している。

事業運営面では、公益目的事業推進のために、首都圏南、首都圏北、北関東、東海、近畿、中国の主要 6 地区において、組織・普及・研修・事務局体制のさらなる充実を図り、未来に向けたビジョン作りを本格的に推進してきた。

中でも、事業推進の原動力となる「全国代表者会議」は、本部と 6 地区の代表者によって具体的事項を協議・決定し、その内容が東・西の「全国指導者会議」に報告され、地区の運営に活かされている。

東・西の「主査研修」「主査候補研修」で育成された若手リーダーを中心に積極的な普及活動が展開され、新しい地域の開拓も着実に進んでいる。

過去 37 年間に及ぶ実績を基に、将来に向けての組織体制の確立と学習・研修のプログラム開発やシステム化を図り、公益法人としての活動をさらに推し進めている。

<事業活動>

I. 家庭教育の振興

- (1) 各地の教育委員会や幼稚園、小学校 PTA 等から講演会の講師の要請を受け、9 回派遣し、延べ 646 人が受講した。
- (2) 各地の教育委員会より 221 回の後援や学校等の協力を得て、若いお母さんを対象に「家庭教育講座」を開催して好評を得た。また、「子育てセミナー」ではアットホームな雰囲気、受講者の子育ての悩みやトラブルの解決に向けて、適切なアドバイスをした。

これらの講座開催は 1,472 回に及び、延べ 26,459 人が受講した。

(3) 協会認定の 22 人のカウンセラーによるカウンセリングは、各地区で定期的に行われ、多くの会員の悩みや問題の解決に役立っている。

(4) 成人男性対象の組織『スコール・マスターズ』は、グループディスカッション方式による「人生学コース」、および「心身開発トレーニングコース」（坐禅・ボイストレーニング・朗読・基礎講座）を開催した。

「地区学習会」を北関東・東海・近畿・中国地区で計 7 回開催し、全国展開に向けての自主運営を進めている。独自に開発した「自己開発ノート」の学習が、平成 26 年度から本格スタートして、好評を得ている。

(5) 熟年女性対象の組織『スコール・グレイセス』は、「グレイセス講座」や「生き生きトレーニング」を各地区で開催して好評を得ると共に、指導者の養成を図っている。

昨年 10 月には設立 10 周年を迎え、「杜のホールはしもと」（相模原市）において、607 人の参加による「10 周年記念講演会」を開催した。会長による記念講演と、首都圏地区のメンバーで編成したコーラスグループ『グレイセス・ヴォーチェ』（28 人）によるミニコンサートを行い、10 周年を祝した。

II. 研修の実施

(1) 「早朝研修」は全国 55 か所の会場で毎朝開催し、延べ 205,003 人が出席した。

(2) 初級・中級・上級者向けのボイストレーニングが、各地区で活発に行われ、延べ 10,977 人が受講した。同トレーニング修了者が受講する「ことだまコース」は、朗読法や話し方を向上させ、指導者養成の研修として定着している。

(3) お母さんがゲーム感覚で子供と共感体験できる「ふれあいトレーニング」をはじめ、寝たきりや転倒防止を図る「生き生きトレーニング」を開催し、合せて、指導者を養成している。

(4) 「家庭教育講座」の講師として、現在 26 人の講師が全国の家庭教育講座を担当しており、これに続く講師の養成を実施している。

(5) 「心身開発トレーニング」のトレーナー審査会が開催され、5 級に 6 人が合格した。また、「ふれあいトレーナー」「生き生きトレーナー」と合せて、全国で 181 人が各地区で活躍している。

(6) 「リーダー研修」「実践者研修」「コメンテーター研修」等に、合せて 4,543 人が受講した。

(7) 実践者研修では新たに「北部実践者研修」を年 2 回開催して、宮城・栃木・茨城・群馬県から延べ 73 人が受講し、若手リーダーの育成を図った。

(8) 会員向けの『自己発見の旅』学習は 152 人が受講し、延べ 2,492 人となった。

Ⅲ. 研究プロジェクトの実施

- (1) 『子育て応援キット』から学び始めて、『スタート』学習、『ステップ・アップ』学習、さらには『自己発見の旅』学習を受講して、レベルアップを図る学習プログラムのシステム化に取り組み、全国展開が平成 27 年 4 月からスタートしている。

『スタート』学習では、若いお母さんが学習しやすいように改訂した教材を昨年 9 月から使用して、好評を博している。また、リーダー向けに「参考メッセージ集」を発行して、活用されている。

- (2) 一部賛助会員からの要請により、社員教育の一環として講師・トレーナーを派遣し、ボイストレーニング・ふれあいトレーニングを中心に 11 回実施し、延べ 145 人が受講して好評を得た。

Ⅳ. ボランティア活動の推進、及び他の団体との連携

- (1) 収集ボランティア活動は、創立以来のベルマーク収集の全国累計が 2,200 万点を超えている。親代わりで支援している社会福祉法人「恵の園」が、今年度の集票点数 235,943 点で全国 20 位、群馬県 1 位の成績を収めた。

学校法人「アジア学院」へ未使用はがき 4,906 枚をはじめ、「聖明園」等への援助を行った。

- (2) 第 39 回ユニセフ「ハンド・イン・ハンド」に、全国 51 か所で 835 人（子供 337 人）が街頭に立って市民に募金を呼びかけ、1,595,529 円を日本ユニセフ協会に収めた。
- (3) 日本キリスト教海外医療協力会に使用済み切手を寄贈し、国際協力も堅実に行われている。
- (4) 日本学術会議会員（学術研究団体）の「日本家庭教育学会」の運営に協力し、第 32 回記念大会で 2 人が研究成果を発表した。他の団体との連携による社会的展開も大きく推進された。

Ⅴ. 普及事業

- (1) 月刊『すこ〜れ』（通巻 445 号）は、生涯学習誌として、内外の好評を得ている。
- (2) 一般向けとして気軽に読むことが出来、また講座案内用のチラシとの相乗効果も期待できる小冊子、「新広報誌」の発行の企画・策定に着手した。
- (3) 協会公式ホームページは随時データを更新して、魅力的な最新情報を提供している。特に、各地の家庭教育講座の開催情報にアクセスが集中している。入力データを基に講座のチラシが作成できる「スターター・キット」が、広く活用されている。

さらに、会員専用ページに、各地区の活動情報を発信する「コミュニティ広場」のコーナーを開設して、閲覧回数が増えている。

- (3) 相模原市の地元紙「相模経済新聞」に、子育て中の父親向け企画として「おとうさん、出番ですよ！」を毎月、連載した。
- (4) 女性講師のブックレット「お母さんへのメッセージ」(5巻)は、子育て中のお母さん方に助言の書として広く活用されている。
- (5) 「ボランティア通信」(通巻46号)を年2回12,000部発行し、全国の収集ボランティア協力者に広く読まれている。

<会員動向>

会員等区分の名称	平成29年3月31日	平成30年3月31日	前年比
一般会員	20,550人	20,352人	99%
特別会員	7,227人	7,582人	105%
合計	27,777人	27,934人	101%
賛助会員	9社	9社	100%

以 上